

エコーズ

2005(平成17)年10月29日鑑賞(ユウラク座)

★★



監督・脚本＝デヴィッド・コープ／出演＝ケヴィン・ベーコン／キャスリン・アーブ／ザカリー・デヴィッド・コープ／イレーナ・ダグラス／ケヴィン・ダン／ルシア・ストラス（アートポート配給／1999年アメリカ映画／99分）

……『シックス・センス』公開直後の1999年9月にアメリカで公開され、裏『シックス・センス』と言われたこの映画が、なぜか今ユウラク座で大阪初公開。原作の良さやケヴィン・ベーコンの熱演は認めるものの、サスペンスホラーは所詮サスペンスホラー。そのホラー性が高い怖いシーンでは薄目にしなければならないし、そのサスペンス性を楽しもうと思ってもワケのわからないシーンの連続は相当疲れるもの。観終わった後で言ってもダメなことはわかっているが、やはりサスペンスホラー映画より楽しい映画や感動作の方が……？



裏『シックス・センス』とは

日本でも大いに話題を呼んだ、あのブルース・ウィリス主演の『シックス・センス』（99年）がアメリカで公開されたほぼ1カ月後の1999年9月に、この『エコーズ』がアメリカで公開されたとのこと。『シックス・センス』と同じような（？）サスペンスホラー映画だが、『シックス・センス』の「あっと驚くカラクリ」と、主役を食ってしまう（？）ような名子役の演技に映画関係者の注目が集まったため、『エコーズ』はそこそこの興行収入をあげながらも裏『シックス・センス』と呼ばれていたらしい。しかしこの映画は、SF・ホラー作家リチャード・マシスの名作『渦まく罅』を原作とし、『スパイダーマン』（02年）、『宇宙戦争』（05年）の脚本家デヴィッド・コープが自ら監督となって映画化したもので、本来、日本でもすぐに公開されるべき作品だったらしい。それがなぜか2005

年10月の今、大阪ではユウラク座のみで公開。特別の期待感もないまま、ただケヴィン・ベーコン主演ということだけで観に行ったが……。

主人公は？

この映画の主人公は配管工のトム（ケヴィン・ベーコン）。トムは、かわいい息子のジェイク（ザカリー・デヴィッド・コープ）と妻のマギー（キャスリン・アープ）とともに、新しく移り住んだシカゴのあるまちで幸せに暮らしていた。

ここで登場するちょっと怪しげな人物（？）が、マギーの姉のリサ（イレナ・ダグラス）。彼女は心霊現象を研究しており、催眠術をかけることができる。と聞いたトムは、パーティーの余興の席で、「俺はそんなバカなことは信用しない」「本当にそんなことができるのなら、俺にかけてみる」としつこくチャレンジした。問題はそこから……。

かかりやすいタイプと、かかりにくいタイプ

私は催眠術が実際に行われる様子を見たことはないが、「催眠術なるもの」が科学的に可能であると信じている人間。また、よく言われるのは、催眠術を施すについては、「かかりやすいタイプ」と「かかりにくいタイプ」があるということで、私はそれも真実だと信じている。マジックで「俺は絶対このネタを明かしてやる！」と意気込み、目を皿のようにして観察する人は、絶対タネ明かしができないのと同じように、「俺は絶対、催眠術にかからない」などと豪語している人ほど、コロリとかかりやすいもの……？　するとトムの場合は……？

不気味なのは息子のジェイク……？

この映画はサスペンスホラーだから、ネタバレになるような評論は禁物。しかし登場人物の紹介や物語のポイントそして見どころぐらいは紹介しておかなければ……。この映画を観はじめに感じるのは、多分幼い息子ジェイクの不気味さだろう。まずは、その顔つきが何となく不気味（失礼……？）であるうえ、風呂に入っている時のしゃべり方もちょっとヘン……。そこであなたは、これはきっと何かあるゾと身構えるはず……。

冷静で合理的な夫婦……

自分がいとも簡単に催眠術にかけられたことを知ったトムは自己嫌悪に陥っただけでなく、身体のだるさと頭痛を訴えたが、その他にも突然さまざまな幻覚症状が。こりゃやばい……。このトムの幻覚症状はストーリーの進展とともに次第に深まっていくため、その都度夫婦間の行き違い、論争そして亀裂が入っていくが、アメリカ人は民主主義的思考の訓練に馴れているためか(?)、この夫婦の論争はいつも比較的冷静かつ合理的……。決して妻のマギーが必要以上に表に出てくることがないのがいいのかもしれないが、最後まで決裂することなく……。

謎の女性サマンサの登場！

トムが幻覚症状の中で見るのは、いつも真っ赤に染まっただけにも不気味そうな風景だが、そこにいつも登場する女性がサマンサ。そして、彼女がホラーとサスペンス物語のキーポイントとなる人物。なぜ彼女の姿がトムの幻覚症状に現れるのか。そしてまた彼女は今、どこで何をしているのか……。それをここで書いたらおしまいヨ……。それは映画を観てのお楽しみに……。

その他の登場人物たち

この映画の主たる登場人物は、トムとマギーの夫婦と息子のジェイク、そしてマギーの姉のリサだけで、その他はトムの大家さんやサマンサに関連する登場人物がごく数名のみ。したがって話は全体としてシンプルでわかりやすいはず……。そのホラー性を十分に感じながら、サスペンス性も楽しんでもらいたいが……。

ラストの暗示するものは……？

サスペンスもの、ホラーものは観終われば、「なるほどこういうことだったのか」ということで一件落着となるのだが、この映画のラストには、それにプラスして観客に何かを暗示するものが2つあるので、それを見逃さないように注意が必要。その1つは、ハッピーエンドを暗示するものだが、もう1つは……？

2005(平成17)年10月31日記